

今週のメニュー

トピックス

海外の塩ビの話題から

- メキシコ湾岸のオイルフェンスとバンクーバー五輪後のリサイクル -

随想

ウガンダ旅行記(4) - パイナップルサンドイッチ -

(社)日本化学工業協会 若林 康夫

編集後記

トピックス

海外の塩ビの話題から

- メキシコ湾岸のオイルフェンスとバンクーバー五輪後のリサイクル -

連日の報道に見られるように、4月20日、米ルイジアナ州沖メキシコ湾で起こった掘削基地の爆発による海底油田からの原油流出は治まっておらず、漁業被害や沿岸部の湿地帯環境への影響が深刻さを増すばかりとなっています。

タンカー座礁などの海難事故になると日本でもそうですが、大量の原油や重油が海岸に押し寄せ大きな被害をもたらします。その際、流れ出た原油の拡散を防ぎ、回収しやすくするのに役立つのが黄色やオレンジ色のオイルフェンスです。日本では国土交通省で規格が決められています。米国でも、オイルフェンスは海上などの原油流出防止、拡散防止に役立つ道具として使われます。今回の原油流出事故でも耐候性、耐油性に優れている塩ビ製オイルフェンスが使われたとのニュースが米国VIより伝えられています。

<http://www.vinylnewsservice.com/MainMenu/News/Latest/VNSNews/Environment/VinylOilBooms.aspx>

少し前の話ですが、4月29日にアメリカ海軍が66000フィートのオイルフェンスを設置して以来、5月15日までに、国家警備部隊、漁業関係者、野生生物当局、ボランティアなどが協力し、海岸線を守るため、沿岸部や入り江入口に200マイル以上のオイルフェンスが配備されたとのこと。当局は、地域の備蓄分を使い切ったため、隣のテキサス州ばかりでなく、遠くカナダやブラジルなどに声をかけオイルフェンスを探しているとのことでした。

その後、138万フィート(約420km)を超えるオイルフェンスが設置されたとの報道もありますが、設置のタイミングなどにより、原油の拡散を十分に食い止めることができていない模様です。また、日本にもオイルフェンスの貸し出し要請があり、石油連盟で検討されているようです。少しでも被害が食い止められることをひたすら祈るばかりです。

カナダの塩ビ工業会からは、塩ビ製品のリサイクルについて、今年の2月カナダバンクーバーで開催された冬季オリンピックに関わる話題が届きました。

<http://www.plastics.net/news.cfm?newsid=72947&l=EN&lid=988&bid=988>

街を歩いているとコマーシャルやイベント情報が満載されたバスや地下鉄を目にすることがあります。これ、実は、印刷したフィルムを貼っているのです。一定時期のイベント用として重宝されています。バンクーバーの冬季オリンピックでも、競技場の建物や看板、更には輸送用の 4600 台の車両、500 台のバスなどに塩ビ製のフィルムが使われました。オリンピックもサステナブルな開催を目標としていることから、使用後の行く末が注目されます。

カナダ塩ビ工業会とカナダプラスチック工業会は、フィルムのメーカーと床材メーカーと協力し、使用済みのフィルムを回収し、塩ビ床材、いわゆる床タイルにリサイクルしました。車体に貼られたフィルム（グラフィック材）は手ではがされ、ロール状に巻き取られて床材工場に運び込まれ、床材として再利用されました。フィルムメーカーでは、使用後のグラフィック材が床材に生まれ変わることを学び、床材メーカーは、グラフィック材も床材としてリサイクルできることを実証できたと今回の成果を喜んでいるとのことです。
(了)

随想

ウガンダ旅行記（４） - パイナップルサンドイッチ -

（社）日本化学工業協会 若林 康夫

さて、「ウガンダ」はこれが最終回となります。

ウガンダは世界でも HIV/AIDS 感染率が高い国で国民の約 5.5% が感染しています。各地域には HIV/AIDS 専門の相談センターが設置され、発症した人の治療やキャリアの人に対しては家族計画の指導を行っています。

また、1976 年、お隣の旧ザイールで発見され、現在、最も致死率が高いとされるエボラ出血熱の新型が 2007 年、ウガンダで発見されたため、アメリカ映画によく登場するアメリカ疾病予防管理センター（CDC）も専門の研究センターを設置し、沢山の研究者が研究活動を続けています。

ウガンダでは救急車は消防署のような公共の組織に属するのではなく、病院の設備です。このため、病気や事故で緊急搬送が必要になった時は、自分が行きたい病院に連絡をして、その救急車で搬送してもらいます。もちろん、有料です。

このため、救急車を利用できるのはある一定以上の収入のある人に限られ、病院に搬送されたのはいいけど既に手遅れということも多いようです。

エネルギーでは、ナイル川（白ナイル川）を利用した水力発電で国内はもとより、他の東アフリカの国に供給ができるまでになっています。



白ナイル川の源流、ビクトリア湖。
(写真を撮った反対側に水力発電用のダムがありますが、重要拠点のため写真撮影禁止です。)

石油も存在が確認されていますが、地下で隣国とつながっている関係で利権が複雑で開発には至っていません。

ヨーロッパの企業を中心に大々的に太陽電池の売り込みを行っています。ただし、砂埃が多いので、効率的に発電をさせるための太陽電池パネルの清掃をどうするのがネックとなっているようです。

ウガンダで驚いたのは「サンドイッチ」。

そう、あのパンの間に野菜やハム、チーズ、卵などをはさんで食べる「サンドイッチ」。

ホテルには当然、地元の方も泊まっていますが、朝食にはパイナップルをはじめ、バナナ、マンゴやスイカなどいろいろな果物も出されます。ウガンダの人の食べ方を見ていると、パイナップルだけはそのまま食べていません。なんと、食パンに挟んで、「パイナップルサンドイッチ」にして食べているのです。

一部の人の食べ方かと思ったら、ほぼ全員が「パイナップルサンドイッチ」にして食べています。ウガンダの人に聞いたところ、「パイナップルはパンに挟んで食べるものでしょう。日本ではどうやって食べるの？」と逆に質問をされてしまいました。

まねをして「パイナップルサンドイッチ」を食べてみましたが、食べ慣れていないせいもあり微妙。やっぱり、パイナップルはそのまま食べるのが美味しいかと。

ウガンダの主食はお米とバナナ。お米は細長いインディカ米ですが、日本と同様、炊いて食べます。バナナは熟したものはそのまま食べますが、熟す前の青いバナナを潰してペースト状にして炊いた豆や野菜などと混ぜて食べていました。

ウガンダは内陸のため、魚を食べることはほとんどありません。

ナイル川の源流の一つであるビクトリア湖でティラピアなど淡水魚がとれますが、輸送手段が整っていないため少量が燻製として出荷されるだけです。首都キガリの市場でもティラピアの燻製が売られていましたが、煙でいぶされ真っ黒な魚のミイラ状態。どうやって料理をするのか謎でした。

ビール作りも盛んです。ビールはイギリス式のものではなく、ドイツ式のラガービール。複数のビール醸造工場があり、それぞれ独自の味を競っています。

アフリカ料理は香辛料が多くつかわれ“辛い”というイメージを持つ方も多いかもしれませんが、ウガンダの人は基本的に辛いものが苦手。カレーなども食べましたが、日本の子供向けカレーのようで物足りない。もちろん、自分で辛さを調整できるように頼めば別に香辛料を出してくれるのですが、使っているのは外国人だけでした。

ウガンダで面白かったのは、メガネ。

最近では老眼鏡が手放せなくなったのですが、メガネをかけていないと“中国人”に間違われます。しかし、メガネをかけると、確実に“日本人”ですね、と言われます。ウガンダの人のイメージは「日本人＝メガネをかけている」のかもしれない。

ウガンダの物価は非常に安く、外国人が旅行をしたり、生活をしたりするには快適かもしれません。

また、日本で考えられているほど危険な国でもなく、イギリス人などはウガンダの地方都市に家を買ったり、イギリスでは実現できなかった小さなお店を開いたりして、のんびりと老後を過ごしている方もかなりいらっしゃいました。

治安という意味では、日本との比較は難しいですが、「アフリカの真珠」と呼ばれるだけあって、自然が豊かな国でした。

(次は「ルワンダ」に続きます)

前回のウガンダ旅行記(3) - 商売 - は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/272/mag_272.pdf

編集後記

最近 思い出深い「はやぶさ」という二つの記事が目につきました。東北新幹線 東京・新青森間で運行を予定されている列車名「はやぶさ」と小惑星探査機「はやぶさ」です。元来「はやぶさ」は東京と鹿児島を結ぶ寝台特急列車「ブルートレイン」でした。学生時代 年末年始に、「はやぶさ」のチケットを求めて東京駅に一晩泊り込み漸く手に入れて、22時間かけ故郷へ帰った思い出があります。しかし、新幹線等の発展と共に2009年3月に寝台特急列車「はやぶさ」は廃止されました。2011年1月から東北新幹線「はやぶさ」として復活するとの事ですので、鹿児島には帰れませんがぜひ懐かしい「はやぶさ」に乗って東北観光巡りを楽しみたいと思っています。

もう一つの小惑星探査機「はやぶさ」は大気圏で燃え尽きましたが、持ち帰ったカプセル内の開封が始まった様です。宇宙の神秘を探れるそうでこちらも楽しみです。(薩弘)



Photo:<http://shinkansenwotorou.com>



Photo:<http://www.i-treasury.net/>



イラスト: 池下章裕

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp